

『芸術鑑賞－能の世界』風景

令和元年11月13日

【芸術鑑賞】

能面作家の海老原先生による能面制作の講話をお聞きしたり、観世流の梅若先生、長谷川先生、幸流の幸先生による能を鑑賞し、実際に体験する活動を通して、生徒たちが能の中に引き込まれる姿が随所に見られました。

【「能」の世界】



日常生活でもあまり「能」という日本の伝統的なものに触れることはなかったので、今回の芸術鑑賞を通じて、能を鑑賞することはすごくいい機会になったと思います。テレビでも見ない能を初めて実際に見た時は、すごく驚きました。姿勢が良く、歩き方も一つ一つ違って、細かいところまで凄くこだわっているんだなと思いました。顔を動かさずに、最小限の動きだけで感情を表すのはとても難しいと思います。最近、国語で勉強した敦盛の最期を見ることができてうれしかったです。

【「能面」の制作講話】



能面は、「彫る」ではなく「打つ」という言葉が心に残っています。いろいろな能面の特徴などで、後の表情などがつくれるので、すごいなと思いました。



【「能」の体験】



《摺り足の体験》



《謡の体験》



《小鼓の体験》



《謡・小鼓-全員》

【「敦盛」の実演】



私は、今日初めて「能」を見ました。母が見たことがあったので聞くと、「日本って感じはするけど、あまりよく分からない。」と言っていたので不安でしたが、見た瞬間に体育館の空気が変わったように感じました。見る間に能に見入ってしまい、あっという間でした。体験も多く、みんな楽しそうで、体験を見る側だった私もとても楽しかったです。私は、一方的に「日本の文化はあまり面白くないし、分からない。」と思っていたけれど、全くそんなことはなかったです。父は能の面白さに気付いていて、私も気付くことができたので嬉しかったです。